

マルメ大学研修を終えて

「治療しているのは歯ではない、患者の脳だ」

常々、患者教育の重要性を説いてきた私にとってこのダン エリクソン先生の言葉は衝撃的だった。「がんばって治療したのにどうしてメンテナンスに通ってくれないのだろう。。」自分の脳にはびこるバイオフィルムの存在に改めて気づくとともに、診療哲学の根幹を見つめ直すことができた。

ダグラス ブラッター先生、熊谷先生、ダン エリクソン先生、そして講師の先生方が本当に伝えたいことは何だろうか。その答えは、自分で一生かけて探すものだという確信が持てた。特に、PBL (Problem Based Learning) という教育システムは臨床の疑問に対する答えを提示するのではなく、自分で考え導き出すという概念を取り入れたものであり、ゆるぎない哲学の構築が最も重要となる。その意味で自分と真正面から向き合う機会をいただけたことに感謝をいたします。

今回は 98 名という大所帯の研修だったが、本当に熱意のある方々ばかりで、多くを学びたいというエネルギーで常に満ちていた。特に衛生士さんは自己負担で参加された方も多く、ある意味歯科医師より向上心や意欲にあふれた方が多かったように思う。

過去 3 回も含め、多くの歯科医師がマルメ大学での研修を終え日本で歯科診療に従事している。一人ひとりが日本の歯科医療を変革するという志をもって日々過ごせば必ず、社会は変わると信じている。私に他人の事をとやかくいう筋合いはない。しかし、エビデンスに基づき、現症を多角的に診断し、真の患者利益を考え続けることが自分の使命であると強く心に刻むことのできた研修であった。